

銅輸出、スクラップとも増

住宅着工は増加、自動車は販売が減少

橋本健一郎氏リポート①

■国際概況

三月前半は、全人代が開幕。中国政府は今年の経済成長率目標を去年の六・五%前後から六・六・五%に引き下げたが、減税を含めた景気刺激策を発表したこと、LME指定倉庫の在庫は一一万六、七二五トンに減少し、二〇〇八年以来の低水準となった。プラスタ材料もあったが、中国PMI低下などから中国需要懸念が生じたこと、昨年十二月の米建設支出は前月比〇・六%減、事前予想の〇・一%を下回るなどを嫌気しLME銅相場はDOWN、三月十五日時点で六、四〇九ドル(セツル)と月初価格より一二七ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は米中首脳会談の開催が後ずれすると一部報道に加え、中国の経済指標の弱い内容だったこと、三月のドイツ製造業購買担当者景気指数(PMI)速報値が好不況の節目とされる五〇を大幅に割り込み、二〇一二年八月以来の低水準、ユーロ圏PMIの製造業指数も六年ぶりの低水準となったほか、米国でもPMIの製造業指数が一年九カ月ぶりの水準に下げた。ライトハイザー米通商代表部もあったが、ライトハイザー米通商代表部(USTR)代表とムニューシン米財務長官が訪中し、二十八日に米中の閣僚級協議が再開されたこと、中国は十五日、製造業などを対象に四月一日から付加価値税の税率を引き下げると発表したことを好感しLME銅相場はUP、四月三日現在、後半スタート価格から二一ドルUPの六、四三二ドル。現状、銅建値は七六万円。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一一・八七→一一・三六(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、一月の自動車生産台数は前年比七%増の七九万〇、一一四台であった。

輸出は四一万七、二八台で前年同月比〇・一%増。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、三月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四・七%減の四一万七、三三三台。

◆新設住宅着工件数推移

平成三十一年二月の住宅着工戸数は七万一、九六六戸で、前年同月比四・二%増となった。また、季節調整済年率換算値では九六・七万戸(前月比一〇・九%増)となった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が一二・二%増の四万四、二六三t、スクラップが一七・九%増の二万五、九〇〇t。

輸入

輸入は電気銅が前年比〇・三%増の九〇〇t、スクラップが六・三%増の二万〇、九五八t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比三・一%減の六万五、六三九t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比一・八%増の五万六、六〇〇tであった。

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると、一月の自動車生産台数は前年比七%増の七九万〇、一一四台であった。

輸出は四一万七、二八台で前年同月比〇・一%増。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると、三月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四・七%減の四一万七、三三三台。

このうち、乗用車は五・七%減、貨物車は一・九%増、バスは五・四%増。

【住宅】

・平成三十一年二月の住宅着工戸数は七万一、九六六戸で、前年同月比で四・二%増となった。また、季節調整済年率換算値では九六・七万戸(前月比一〇・九%増)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で三カ月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、分譲住宅は増、貸家は減となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(六面へ続く)

LME銅・今月も米中貿易戦争、 為替予想 (四画より続く)

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比三・一%減の六万五、六三九tと、三カ月連続減少。多くの品目で輸出を中心に前年度比マイナスが目立つ。ただ、三月までの二〇一八年下期生産量は四一万三千トンと、前年同時期並の見込み。二〇一九年見通しも明るい予想。

このうち、内需は五万五、一一六tで二%減と二カ月連続マイナス、輸出は一万〇、五二二tで八・九%減と四カ月連続マイナス。

品種別では、銅条は二万一、六〇九tで二・七%減と再びマイナス、黄銅棒は一万五、四〇六tで二・六%減と二カ月連続マイナス。

【電線】

前年比一・八%増の五万六、六〇〇t。このうち、国内は一・四%増、輸出が一五・一%増。

【輸出】

電気銅輸出が二・二%増の四万四、二六三t、銅スクラップが二七・九%増の二万五、九〇〇t。

【輸入】

輸入は電気銅が〇・三%増の九〇〇t、スクラップが六・三%増の一万〇、九五八t。

【見通し】

・自動車は生産が七%増。国内販売台数は前年比四・七%減。生産は再びプラス。生産はプラスだが販売はマイナスであり、今後注視。

・平成三十一年二月の住宅着工戸数は七万一、九六六戸で、前年同月比四・二%増となった。また、季節調整済年率換算値では九六・七万戸(前月比一〇・九%増)となった。・住宅着工の動向については、前年同月比で三カ月連続の増加となっており今後に期待

・伸銅品生産は前年比三・一%減の六万五、六三九tと、三カ月連続減少。今後マイナスが続くか注視。

・電線は前年比一・八%増の五万六、六〇〇t。このうち、国内は一・四%増、輸出が一五・一%増。

・銅輸出は製造業の内需停滞及び減少を背景に増加。

・銅輸入は前記の同理由から小幅な増加に留まった。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は大型一〇連休前のリスク売りや建値が再び七六万円まで回復したこと、利益確定売りが出てくるのではないかと、需要面に関しては足元の生産状況は変わら

英離脱問題が左右へ

ないが上物以外は荷余り状態。未だメーカーの購入意欲は高くはないが、慢性的な原料不足で品位の良いスクラップは需要がある。それ以外の山行や黄銅系は需要がなく飽和状態が続く。

【LME・為替予想】

今月も米中貿易戦争の動向と英国の離脱問題の動向に左右される

米中貿易に関しては、米国でもPMIの製造業指数が一年九カ月ぶりの水準に下げるなど景気後退の兆候が見られることや、ライトハイザー米通商代表部(USTR)代表とムニューシン米財務長官が訪中し、二十八日に米中の閣僚級協議が再開されたこと、IMFのラガルド専務理事が「世界経済は成長の勢いがさらに失われた」と述べ、来週公表する最新見通しで今年の成長率を従来の三・五%から下方修正することを示唆したことなどを受けて米中が歩み寄る可能性が出てくるのではないかと。

英国の離脱問題に関しては、欧州連合(EU)に対し離脱交渉期限の延長を要請することを明らかにした。また、議会の膠着状態からの脱却に向け野党・労働党のコービン党首と協議する意向も示したこと、こちらも一旦は先延ばしになったものでは？

これらを踏まえた四月の銅価格は六、四〇〇(六、六〇〇ドル(セツル))との予想。ドル円値は一一〇円(一一二円(TTM))台を予測。

銅建値に関しては七五〇(七八〇円程度と予測している)。

二月豪貿易収支、黒字額拡大

輸入の減少を受け―統計局

オーストラリア統計局が三日発表した二月の貿易収支は季節調整済みで四八億〇、一〇〇万豪ドルの黒字となり、黒字額は前月の四三億五、一〇〇万豪ドルから拡大した。市場予想は三七億豪ドル。

内訳は輸出が前月比横ばいの三九八億二二〇万豪ドル、輸入が一億減の三五〇億二〇〇万豪ドル。輸出のうち、鉄鉱石を中心とする金属鉱石、鉱物が一一%増の九五億六、九〇〇万豪ドル、石炭が一三%減の五二億二、八〇〇万豪ドル、その他鉱物油が二%増の五四億二、四〇〇万豪ドル。

食肉は二%増の一二億六、五〇〇万豪ドル、穀物は六%減の五億三、六〇〇万豪ドル、金は七%減の二〇億二、〇〇〇万豪ドル。

輸入では、乗用車などの非産業用輸送機器が一八%増の二三億〇、三〇〇万豪ドル。